

ふりがな 氏名	おぐらいくお 小椋郁夫		職名	教授
取得学位	学士	学会での受賞歴		
主な担当科目	教育実習指導、教育内容演習、理科教育法、生活科教育法、幼児と環境、生活と環境			
所属学会	日本理科教育学会、日本科学教育学会、日本生物教育学会、全国学校飼育動物学会、日本保育学会、岐阜県淡水魚類学会			

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
みんなでみつけた子どもの姿(動詞・形容詞)	平成30年度後期～令和4年前期	「せいかつ」の学習において、まず、はじめに学生に幼稚園や保育園で感じた子どもの活動を動詞や形容詞でそれぞれ20程度表現させる。これを集計してベスト30を選び、再度、それぞれの動詞と形容詞からイメージできる子どもの姿を記述させる。各動詞・形容詞ごとで全員の学生の表現した子どもの姿を一人一つの動詞または形容詞を担当して、集計して、一冊の本を作成し、それぞれのまとめた内容を発表して交流した。80名以上の学生の考えから多様な子どもの活動状況が分かり、今後の講義の参考となる冊子にできあがった。全86ページ。
「生活科教育法」の学習内容	平成30年度後期～現在	5社の生活科の教科書1・2年の内容を単元ごとに4人程度のグループで担当させ、それぞれの学習内容について相互交流する。次に単元をいくつかに分けて、一人一枚ずつレポートし、自分の学習内容を説明・交流する。レポートをまとめて一冊の本を作成して、全員で各自の学習内容を発表して、生活科全体の学習の流れを学び合うことができた。全91ページ
諸感覚を活用して身の回りの自然を体感させるビンゴゲームの考案	平成30年度前期～現在	諸感覚を活用して発見した「自分のお気に入りの自然」を使って、各自が9または16コマのビンゴ表を作成して、他の仲間と発見し合うことを通して、多様な自然観察について学習する方法を開発した。
木の高さの測定方法の開発	平成30年度前期～現在	巻き尺と一枚の紙を使えって、背よりも高い木の高さを測る方法を開発した。文献で調べると江戸時代に考案された測量方法の一つであることが分かり、いつの世にも素敵な発見があることも加えて学ばせた。
身の回りの生き物観察レポートの考案	平成30年度前期～現在	普段の生活の中で身の回りの生き物についてより深く理解するために、レポートを作成し、お互いの発見を交流した。個々が見つけた身の回りの生き物が多様であることに感動し、同じような生き物を身の回りで観察しようと意欲を育てることができた。
付箋を活用した個々の学生の発見や意見を短時間でまとめる方法の開発	平成30年度前期～現在	個々の学生の発見や意見の一つ一つを付箋に書き、班ごとで同じ内容同士を合わせ、隣の班と合わせる活動を学級全体に広げていく方法により、短時間で全員の「考えをまとめていくことができる。この方法により、一人ひとりの

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		発見や意見を把握して、さらに深い交流や話し合い、討論に結び付けることができた。
授業において深い学びをさせるための指導方法の開発～教員採用試験における集団討論問題の理解～	平成30年度 後期～現在	教員採用試験における集団討論問題について、まず作文用紙やレポート用紙に自分の考えを書かせてから交流し、さらに仲間の考えを基にして自分の考えを書きなおさせる。この繰り返しにより、昨年度より深い学びが実践でき、個々の話す内容が昨年度に比べて早期に向上した。
幼児や小学生が身近な自然に興味を持たせるため教育方法の開発	平成30年度 前期～現在	幼児や小学生が普段の生活の中で身近な自然に興味を持つようにするため、いろいろな環境を比較・観察、環境との関連付け、変化の読み取りの視点から学ぶ手法を開発した。
自然や博物館で学習する共通の学習プログラムの開発	平成30年度 前期～現在	自然を観察したり、博物館などを見学したりする体験活動の中で、どこでも活用できる共通のプログラムの開発を行い、実際の授業や野外の研究会などで検討したり修正したりして、開発した。
アクティブ・ラーニングに関する授業の実践	平成30年度 前期～現在	新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」について、担当授業の中で具体的に実践することによって、多様な指導方法があることに気付かせ、現場での実践に役立つよう工夫した。
岐阜県環境影響評価審査会委員	平成30年度 ～現在	岐阜県内の自然環境の開発(土木工事、施設建設など)における環境への影響について、主に魚類への影響についての評価を行った。
名古屋土曜学習プログラムの講師	平成30年度 ～現在	名古屋市内の小中学校で、理科の興味や関心を持たせるための実験やものづくりを行った。ホウバ飛行機、光の卵、動物の足形、化石レプリカ、紙飛行機など。高橋哲也教授と一緒に活動している。
野生生物保護審査委員会委員	平成30年度 ～現在	岐阜県内の野生生物の保護について、主に魚類の保護対策や今後の影響についての審査を行った。
中学校理科教科書『新しい科学』編集委員会	平成30年度 ～現在	これまでも行っていたが、新たに「平成 33 年度発行予定中学校教科書『新しい科学』(東京書籍)の編集委員の委嘱を受け、会議に参加した。28年度教科書の助言・校閲、33 年度教科書の助言・原稿執筆・校閲、教師用指導書の助言・原稿執筆・校閲等を行った。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
保育者・教育者をめざす学生のための自習ガイドブック	平成31年 4月	教員採用試験に向けて、基礎学力の向上のための個々の学生に応じた学習の取り組み方および問題を収録して活用できるテキストを作成した。
保育者・教育者をめざす学生のための自習ガイドブック 第2版	令和2年 5月	上記に一部修正を加え、版を縮小して作成・発行した。
新型コロナ下における学生レポートの交流方法の開発	令和3年4 月～現在	新型コロナの蔓延防止策として学生のレポート発表と意見交流について次の方法で行った。①発表した内容について付箋に意見を書く→全員発表後に個々の机の上に置いたレポート用紙に付箋を貼り付けに回る→もらった付箋をレポート用紙に分類整理して添付し、感想を書いて提出する。②個々の机の上に作成したレポートと感想記述用のレポート用紙を置く→個々が机を移動して、それぞれのレポートの感想を一行程度書いて回る→自分のレポートの感想を読み、感想を書いて提出する。
保育者・教育者をめざす学生のための自習ガイドブック 第3版	令和4年4 月	教員採用試験に向けて、基礎学力の向上のための個々の学生に応じた学習の取り組み方および問題を収録して活用できる作成したテキスト(第1版、第2版)に一部修正を加えて作成・発行した。
「身のまわりの自然ちよっぴりくわしく見てみよう」の冊子を活用した授業の再構築と授業実践	令和4年4 月	研究者の著書である冊子を使用して、四季折々の自然の観察、動物園や水族館の見学等を通してレポートを作成させて、身の回りの自然や施設の素晴らしさを認識させるとともに、今後の教員生活にも生かしていけるような教材を此前の実践を再構築して開発した。
高校出前授業	令和4年9 月	久居高校で、小学校教員の仕事内容、やりがいや職業観について説明し、今後の進路選択のきっかけになるような講義を行った。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	1.教員免許状更新講習の理解を 深めるための教育・保育の論点 ガイド	単	平成30年 7月	三恵社/名古屋女子大 学文学部児童教育学科 編(202頁)	小椋郁夫他 23名 第2章「小学 校・中学校における教科の指導 法」第5節「幼児や児童に環境 の素晴らしさをどのように教える か」(pp155-164)
	2.岐阜県の魚類の現状と今後—岐 阜の河川に魚をふやそう—	共	平成31年 1月	岐阜新聞社(96頁)	駒田格知・小椋郁夫他 2名、全 編

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
著書	3.保育者・教育者を目指す学生のための自習ガイドブック	単	平成31年4月	三恵社 / 名古屋女子大学文学部児童教育学科編(215頁)	小椋郁夫他 11名 第4章「理科第2節第2分野(pp154-160、166-172、174-176)」
	4.身のまわりの自然ちよっぴりくわしく見てみよう	単	平成31年4月	岐阜新聞社(113頁)	小椋郁夫
	5.シリーズ教育・保育の論点 教授法と子ども理解	単	令和元年7月	三恵社 / 名古屋女子大学文学部編(142頁)	小椋郁夫他 19名 第5章「深い学び小学校理科の指導と評価」(pp79-86)
	6.シリーズ教育・保育の論点 理論と実践	単	令和2年8月	三恵社 / 名古屋女子大学文学部編(122頁)	小椋郁夫他 15名 第2部第4章「自然を愛する心情を養い、素晴らしさを見つける活動から深い学びを」(pp67-74)
	7.シリーズ教育・保育の論点 新時代の学び	単	令和3年7月	三恵社 / 名古屋女子大学文学部編(136頁)	小椋郁夫他 18名 第2部第4章「理科における「主体的な学び」の指導と評価」(pp86-93)
著書	8.シリーズ教育・保育の論点 学びの深化	単	令和4年7月	三恵社 / 名古屋女子大学文学部編(107頁)	小椋郁夫他 13名 第2部第5章「理科における「深い学び」の指導と評価」(pp56-63)
論文	1.長良川自然観察研修会への参加が小学校および幼稚園教員養成課程の学生の自然認識に対する意識と知識に及ぼす効果	共	平成31年3月	名古屋女子大学研究紀要第65号	高橋哲也・小椋郁夫(pp.85-92)
	2.保育者養成課程の学生が領域「環境」に関する演習授業で季節と関連した行事の模擬保育のために選択したテーマについて	共	平成31年3月	名古屋女子大学研究紀要第65号	高橋哲也・小椋郁夫(pp.391-394)
	3.野外学習を通して生物リテラシーを育てるための指導と評価の在り方	単	令和元年12月	名古屋女子大学文学部/児童教育論集 第3号	小椋郁夫(pp8-17)
	4.長良川自然観察研修会への参加が現職小学校教員の自然観察に対する意識と知識に及ぼす効果—「パターン把握」と「環境リテラシー」の理解を中心として—	共	令和2年3月	名古屋女子大学研究紀要第65号	高橋哲也・小椋郁夫(pp.391-394)

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	5.自然事象のパターン把握により、深い学びができる野外学習の指導と評価のあり方―河川の上流・中流・下流の学習を通して―	単	令和3年1月	名古屋女子大学文学部/児童教育論集 第4号	<u>小椋郁夫</u> (pp24-29)
	6.食と健康の向上のための遠隔啓発効果～小学生向け食育媒体の開発とその啓発効果～	共	令和3年5月	名古屋女子大学総合科学研究第15号	近藤浩代・ <u>小椋郁夫</u> 他5名
	7.小学校の生活科、小学校理科および中学校理科の教科書における「川や魚」の扱いについて	単	令和3年9月	淡水魚類研究会会報	<u>小椋郁夫</u> (pp19-39)
	8.理科における「対話的な学び」の指導と評価	共	令和3年12月	名古屋女子大学文学部/児童教育論集 第5号	<u>小椋郁夫</u> (pp24-29)
	9.咀嚼に着目した小学校向け食育教材の評価	共	令和4年3月	名古屋女子大学研究紀要第68号	大曾基宣・ <u>小椋郁夫</u> 他4名(pp1-10)
	10.小学校生活科や理科における「魚」の指導について	単	令和4年12月	名古屋女子大学文学部/児童教育論集 第5号	<u>小椋郁夫</u> (pp36-45)
学会発表	1.冊子『自然の観察』を活用した指導	単	平成30年12月	日本理科教育学会第64回東海支部大会(愛知教育大学)	<u>小椋郁夫</u> 研究発表予稿集
	2.岐阜県の魚類の現状と今後～雑魚をふやそう～	単	平成31年1月	日本生物教育学会第102回全国大会(愛知教育大学)	<u>小椋郁夫</u> 研究発表予稿集
	3.弾けた瞬間に色のついたポップコーンは作れるか?	共	令和元年9月	日本理科教育学会第69回全国大会(静岡大学)	高橋哲也、中村咲里亜、 <u>小椋郁夫</u> 研究発表会論文集
	4.自然のパターン把握により、深い学びができる野外学習の指導と評価の実証的研究～生物分野を中心として～	単	令和3年12月	日本理科教育学会第66回東海支部大会(名古屋女子大学)	<u>小椋郁夫</u> 研究発表予稿集
	5.自然のパターン把握により、深い学びができる野外学習の指導と評価の実証的研究～地学分野を中心として～	共	令和3年12月	日本理科教育学会第66回東海支部大会(名古屋女子大学)	古田靖志・ <u>小椋郁夫</u> 研究発表予稿集
	6.長良川の自然環境を活用した理科学習	単	令和5年3月	日本生物教育学会第107回全国大会(高崎健康福祉大学)	<u>小椋郁夫</u> 研究発表予稿集

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	7.リサイクルペットボトルプランターの作成と使用例としてのハウセンカの観察	共	令和5年 3月	日本生物教育学会第 107回全国大会(高崎健 康福祉大学)	高橋哲也・ <u>小椋郁夫</u>
その他 (報告書)	1.自然事象のパターン把握による 長良川学習	共	令和3年3 月	科学研究費補助金基盤 研究(令和元年度～3年 度)の研究成果刊行物	<u>小椋郁夫</u> (研究代表)・井上好章・ 古田靖志
その他 (冊子)	1.「かむ」ってなあ～んだ	共	令和元年 6月	名古屋女子大学 食と健 康研究会	駒田格知研究代表、 <u>小椋郁夫</u> 他 6名